

ベニスに死す

Death In Venice

観賞日 2018・9・24

制作 1971年 伊・仏

上映時間 131分

監督 ルキノ・ヴィスコンティ

原作 トーマス・マン

音楽 グスタフ・マーラー

出演 ダーク・ボガード (グスタフ・アッシェンバッハ)

ビョルン・アンドレセン (タージオ)

シルヴァーナ・マンガーノ (タージオの母)

【あらすじ】

1911年夏のベニス。病気療養のため当地を訪れた、老音楽家グスタフ・アッシェンバッハは宿泊したホテルで、美少年のタージオを見て一瞬にして心を奪われる。タージオは家族でベニスに来ていた。ベニス滞在中、グスタフのタージオへの想いは募るばかりで、気がつくとも目はタージオの姿を追っていた。ある日、街を消毒しているのを見たグスタフはその理由を尋ねると、コレラが蔓延する恐れがあるのですぐにでも街を出るように勧められる。タージオ一家もベニスを後にするらしいが、老いと体調が悪化しているグスタフはベニスに残ることを決意する。浜辺で夕日を浴びたタージオの美しいシルエットを見ながらグスタフは無残な死を迎えていた。

ベニスを舞台に、巨匠ルキノ・ヴィスコンティが描く独自の耽美な世界

【解説】

■トーマス・マンの同名小説（主人公のモデルは音楽家グスタフ・マーラー）をルキノ・ヴィスコンティが映像化

・トーマス・マン（1875年～1955年 ドイツ人の小説家）

主要作品：「トニオ・クレーゲル」「魔の山」

1929年にノーベル文学賞を受賞

・グスタフ・マーラー（1860年～1911年 ユダヤ系オーストリア人の指揮者、作曲家）

交響曲に評価の高いものが多く、本作でも交響曲第5番がバックに使われている。

・ルキノ・ヴィスコンティ（1906年～1976年 イタリア人の映画監督）

ミラノの貴族出身 ネオレアリズモの旗手

主要作品：「若者のすべて」「山猫」「地獄に堕ちた勇者ども」

■見どころ

・主演ダーク・ボガードの演技

ヴィスコンティ映画の常連、本作でも性格俳優ぶりを発揮

・対比（老音楽家とタージオ）

老いと若さ、醜さと美しさ